

00012JP

1. 化学品及び会社情報

製品名 : 160-22(ORP標準液粉末)
製品コード : 3200043617(9003003000)

推奨用途及び使用上の制限

意図される使用

ORP標準液粉末

合理的に予見可能な誤使用

データなし。

供給者を特定する情報 : 株式会社 堀場アドバンステクノ
〒601-8306
京都市南区吉祥院宮の西町31
電話番号: 075-321-7184

2. 危険有害性の要約

GHS 分類 : 急性毒性(経口) - 区分3
皮膚刺激性 - 区分2
眼に対する重篤な損傷 - 区分1
皮膚感作性 - 区分1
生殖細胞変異原性 - 区分2
発がん性 - 区分2
特定標的臓器毒性(単回ばく露) - 区分2
特定標的臓器毒性(単回ばく露)(気道刺激性) - 区分3
特定標的臓器毒性(反復ばく露) - 区分2
水生環境有害性(急性) - 区分1
水生環境有害性(長期間) - 区分1
未知の急性経皮毒性を有する原料を含有する混合物の割合: 100%
未知の急性吸入毒性を有する原料を含有する混合物の割合: 100%
水生環境に対する未知の危険有害性成分から成る混合物のパーセンテージ: 100%

GHS ラベル要素

危険有害性の絵文字



注意喚起語

: 危険

危険有害性情報

: 飲み込むと有毒。
重篤な眼の損傷。
皮膚刺激。
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。
遺伝性疾患のおそれの疑い。
発がんのおそれの疑い。
臓器の障害のおそれ。
呼吸器への刺激のおそれ。
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ。
長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性。

注意書き

安全対策

: 使用前に取扱説明書を入手すること。全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
保護手袋を着用すること。保護眼鏡または保護面を着用すること。保護手袋/衣類を着用すること。屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。環境への放出を避けること。粉塵またはミストを吸入しないこと。この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。取扱い後はよく手を洗うこと。汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

2. 危険有害性の要約

- 応急措置** : 漏出物を回収すること。気分が悪い時は、医師の手当てを受けること。ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は医師に連絡すること。飲み込んだ場合：ただちに医師に連絡すること。口をすすぐこと。皮膚に付着した場合：多量の水と石鹼で洗うこと。汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合：医師の手当てを受けること。眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。ただちに医師に連絡すること。
- 保管** : 施錠して保管すること。涼しいところに置き、日光から遮断すること。
- 廃棄** : 内容物および容器を現地、地域、国および国際的規則に従って廃棄すること。

他の危険有害性 : 分散すると、粉塵と空気の爆発性混合物を形成する可能性あり。

3. 組成及び成分情報

化学物質／混合物 : 混合物

CAS 番号／他の特定名

成分名	%	CAS 番号	官報公示整理番号 (化審法)	労働安全衛生法
Quinhydrone フタル酸水素カリウム	50 50	106-34-3 877-24-7	データなし。 3-1272; 3-1342	データなし。 (3)-1272

本製品の成分の中には、現在の知識の範囲および該当する濃度において、このセクションで報告が義務づけられている健康または環境に対して有害危険性であると分類される成分は含まれていません。

本製品の補足的な成分の中には、現在の知識の範囲および該当する濃度において、このセクションで報告が義務づけられている健康または環境に対して有害危険性であると分類される成分は含まれていません。

暴露限界がある場合、セクション8に記載されている。

4. 応急措置

必要な応急処置の説明

- 眼に入った場合** : 直ちに医師の診断を受ける。医師に連絡する。すぐに多量の水で、時々上下のまぶたを持ち上げながら眼をすすぐ。コンタクトレンズの有無を確認し、着用している場合にははずす。少なくとも10分間洗い流し続ける。化学品による火傷はすみやかに医師による手当てを受けなければならない。
- 吸入した場合** : 直ちに医師の診断を受ける。医師に連絡する。空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。煙霧が残存している疑いがある場合、救助隊は適切なマスクあるいは自給式呼吸器を着用しなければならない。呼吸していない場合、呼吸が不規則な場合、あるいは呼吸停止が起きた場合には、適切な訓練を受けた者が人工呼吸あるいは酸素吸入を行う。救助者が口移し人工呼吸で蘇生術を行うと、救助者に危険がおよぶことがある。意識がない場合、昏睡位(うつ伏せで顔をやや横向き)にして直ちに医師の診断を受けさせる。気道を開いた状態に維持する。襟、ネクタイ、ベルト、ウエストバンド等の衣類の締め付けをゆるめる。
- 皮膚に付着した場合** : 直ちに医師の診断を受ける。医師に連絡する。多量の水と石鹼で洗うこと。汚染された衣服および靴を脱がせる。汚染された衣服を取り除く前に汚染された衣服を水で十分に洗うか、または手袋を着用する。少なくとも10分間洗い流し続ける。化学品による火傷はすみやかに医師による手当てを受けなければならない。何らかの不快感や症状があるときはそれ以上の暴露を避ける。衣類は、再着用の前に洗濯する。靴は再使用前に十分に洗浄する。
- 飲み込んだ場合** : 直ちに医師の診断を受ける。医師に連絡する。水で口を洗浄する。入歯をしている場合ははずす。空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。物質を飲み込んだ場合、被災者の意識があれば少量の水を飲ませる。嘔吐すると危険なことがあるので、もし被災者の気分が悪くなったらそれ以上水を飲ませてはならない。医師の指示がない限り、吐かせてはならない。もし嘔吐が起きた場合は嘔吐物が肺に入らないように頭を低い位置に保つ。化学品による火傷はすみやかに医師による手当てを受けなければならない。意識がない場合、決して口からもものを与えてはならない。意識がない場合、昏睡位(うつ伏せで顔をやや横向き)にして直ちに医師の診断を受けさせる。気道を開いた状態に維持する。襟、ネクタイ、ベルト、ウエストバンド等の衣類の締め付けをゆるめる。

最も重要な急性および遅発性の症状/影響

起こりうる急性毒性

- 眼に入った場合** : 重篤な眼の損傷。

4. 応急措置

- 吸入した場合** : 吸入すると、単回暴露で臓器に障害を引き起こすおそれがある。呼吸器への刺激のおそれ。
- 皮膚に付着した場合** : 刺激性がある。
- 飲み込んだ場合** : 飲み込むと有毒。飲み込むと、単回暴露で臓器に障害を引き起こすおそれがある。
- 過剰暴露の徴候/症状**
- 眼に入った場合** : 有害症状には以下の症状が含まれる:
痛み
流涙
発赤
- 吸入した場合** : 有害症状には以下の症状が含まれる:
気道の刺激
咳
- 皮膚に付着した場合** : 有害症状には以下の症状が含まれる:
痛み及び刺激
発赤
水ぶくれになることがある
- 飲み込んだ場合** : 有害症状には以下の症状が含まれる:
胃痛

必要に応じた速やかな医師の手当てと必要とされる特別な処置の指示

- 医師に対する特別な注意事項** : 症状に対応した対処療法を行うこと。大量に摂取あるいは吸引した場合は、直ちに毒物治療の専門医に連絡する。
- 特定の治療法** : 特定の治療法はない。
- 応急措置をする者の保護** : 人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。煙霧が残存している疑いがある場合、救助隊は適切なマスクあるいは自給式呼吸器を着用しなければならない。救助者が口移し人工呼吸で蘇生術を行うと、救助者に危険がおよぶことがある。汚染された衣服を取り除く前に汚染された衣服を水で十分に洗うか、または手袋を着用する。

有害性情報を参照(セクション11)

5. 火災時の措置

消火剤

- 消火剤** : 粉末化学消火剤を使用すること。
- 不適切な消火剤** : 粉塵と空気の爆発性混合物を形成する可能性がある高圧媒体を避けること。

火災時の措置に関する特有の危険有害性

- 分散すると、粉塵と空気の爆発性混合物を形成する可能性あり。本製品は水生生物に対して非常に有毒であり、長期にわたり持続する影響を有する。本物質によって汚染された消火用水は封じ込める必要があり、水路、下水、または排水管に放出してはならない。
- 有害な熱分解生成物** : 分解生成物には以下の物質が含まれることがある:、二酸化炭素、一酸化炭素、

消防士用の特別な防具と予防措置

- 火災が発生したら、すみやかに火災現場から人員を退避させ現場を隔離する。人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。危険でなければ、火災現場から容器を移動させる。ウォーターズプレーを使用して火気にさらされた容器を冷温に保つ。

消火を行う者の保護

- 消火を行う者は適切な保護器具と、陽圧モードで動作するフルフェイス部分を備えた自給式の呼吸器具を装着しなければならない。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- 緊急時要員以外の人員用** : 人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。周辺地域の人々を避難させる。関係者以外ならびに保護用具を着用していない作業員の入室を禁じる。漏出した物質に触れたり、その上を歩いたりしてはならない。全ての発火源を遮断する。危険地域には、発火信号、煙草、火焰機器を持ち込まない。粉塵を吸入しない。十分な換気を行う。換気が不十分な場合は適切な呼吸用保護具を着用する。適切な個人保護装置を着用する。
- 緊急時の責任者用** : 流出分の取り扱いに専用衣類が必要な場合には、適切および不適切な物質に関するセクション8に記載の情報に注意しなければならない。「緊急時要員以外の人員用」の情報も参照。

6. 漏出時の措置

環境に対する注意事項 : 漏出した物質や流去水の拡散、および土壌、水路、排水溝下水道との接触を回避する。製品が環境汚染(排水、水路、土壌または大気)を起したときは、関係する行政当局に報告する。水質汚染物質である。大量に放出されると環境に対して有害である可能性がある。漏出物を回収すること。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

- 少量流出** : 漏出区域から容器を移動する。火花防止型の工具および防爆型の装置を使用する。粉塵の発生を避けること。乾燥状態で掃かないこと。粉塵をHEPAフィルター付きの器具で吸い取り、ラベルが貼られた密栓付きの廃棄物用容器に入れること。漏洩物は指定された、ラベルの貼られた廃棄物用容器に入れること。許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処分する。
- 大量流出** : 漏出区域から容器を移動する。火花防止型の工具および防爆型の装置を使用する。放出現場には風上から近づくこと。下水溝、水路、地下室または密閉された場所への侵入を防止する。粉塵の発生を避けること。乾燥状態で掃かないこと。粉塵をHEPAフィルター付きの器具で吸い取り、ラベルが貼られた密栓付きの廃棄物用容器に入れること。粉塵状態になるのを避け、風による散乱を防止する。許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処分する。注意: 接触時の情報はセクション4を、廃棄処理はセクション13を参照して下さい。

7. 取扱い及び保管上の注意

安全に取扱うための注意事項

- 保護措置** : 適切な個人保護具を使用すること(セクション8を参照)。皮膚感作障害の病歴を持つ人を、本製剤が使用されるいかなる工程にも就業させてはならない。暴露を避けること—使用前に取扱説明書入手すること。全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。眼、皮膚および衣類に触れないようにする。粉塵を吸入しない。摂取してはならない。環境への放出を避けること。取り扱い時に粉塵の生成を避け、着火の原因となり得るものすべて(火花または火炎)を避ける。粉塵の貯留を防止する。換気が十分な場所でのみ使用する。換気が不十分な場合は適切な呼吸用保護具を着用する。使用しないときは元の容器又は適合素材で作られた認可済みの代替容器に入れ、密閉して保存する。電気機器および照明器具は、熱せられた表面、火花、その他の引火源に粉塵が接触しないよう、適切な基準に合わせて防護されていなければならない。静電気防止対策を講じる。火災や爆発を防止するため、容器を接地して運搬中の静電気を放電させると共に、物質を移し換える前に容器と用具を電氣的に接続する。容器が空でも製品の残留物が残存して有害危険性がある。容器を再利用してはならない。
- 一般的な職業衛生に関する助言** : 本物質の取扱い、保管、作業を行う場所での飲食および喫煙は厳禁。作業者は飲食、喫煙の前に手を洗うこと。飲食区域に入る前に汚染した衣類と保護具を脱ぐこと。同様にセクション8の衛生措置に関する追加情報も参照。

- 安全に保管するための注意事項** : 現地の法規制に従って保管する。隔離され認定された場所に貯蔵する。元の容器に入れ、換気の良い乾燥した冷所で直射日光を避け、混合禁止物質(セクション10を参照)および飲食物から離して保管する。施錠して保管すること。あらゆる発火源を除去する。酸化性物質に近づけない。使用直前まで、容器は固く閉め封印して保管する。いったん開けた容器は入念に再密閉し、漏出を防ぐため直立させて保管する。ラベルのない容器に保管してはならない。環境汚染を避けるために適切な容器を使用する。非相溶性材料については取扱いまたは使用前にセクション10を参照のこと。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度

曝露限界

なし。

適切な技術的管理

- : 換気が十分な場所でのみ使用する。ユーザーの作業により粉塵、ヒューム、ガス、蒸気またはミストが発生する場合は、作業行程の囲い込み、局所的排気通風装置あるいはその他の技術的制御により、作業者の空中に浮遊している汚染物質への暴露を全ての推奨値あるいは法定限度以下に保つこと。ガス、蒸気あるいは塵埃の濃度を暴露限界以下に保つためには技術的な管理も必要となる。防爆型換気装置を使用する。

環境暴露管理

- : 換気装置および作業工程装置からの排出物を検査し、環境保護の法律規制の要件に適合していることを確認しなければならない。場合によっては排出物を許容レベル以下に下げるために煙霧清浄機やフィルター、あるいは行程装置の技術的改良が必要になることもある。

個人の保護措置

8. ばく露防止及び保護措置

- 衛生対策** : 化学製品の取り扱い後は、食事、喫煙およびトイレの使用前および作業時間の最後に、必ず手、ひじから下の腕および顔を洗う。汚染された可能性のある衣類を取り除く際には、適切な技術を用いる。汚染された作業衣は作業場から出さないこと。汚染された衣類は、再着用の前に洗濯する。作業場所の近くに洗眼スタンドと安全シャワーが設置されていることを確認する。
- 保護眼鏡/保護面** : リスク評価によって必要とされる場合は、液体の飛まつ、ミスト、ガスあるいは塵埃への暴露をさけるため、承認された基準に合格した安全眼鏡を着用する。接触の可能性がある場合、評価によってより高次の保護が指摘されている場合を除いて次の保護具を着用しなければならない。化学物質用飛沫防止ゴーグルおよび/またはフェイスシールド
吸入危険有害性が存在する場合には、代わりにフルフェイス呼吸保護具が必要な場合もある。
- 手の保護具** : リスク評価によって必要とされる場合は、化学製品の取り扱いの際、承認された基準に合格した耐化学品性で不浸透性の手袋を常に着用する。手袋製造業者により特定されたパラメータを考慮して、手袋の使用中に手袋がまだ保護性を維持しているかを確認すること。あらゆる手袋の材料は製造業者が異なれば透過時間も異なる可能性があることに注意する必要がある。いくつかの物質から成る混合物の場合には、手袋の保護時間を正確に推定することはできない。
- 身体保護具** : 作業者の身体保護衣は、行う作業の内容および関連するリスクに基づいて選択しなければならない。さらにこの製品を取り扱う前に専門家の承認を受けなければならない。
- その他の皮膚保護具** : この製品を取り扱う前に、行う作業とそれに付随するリスクに基づき適切な履物および何らかの追加的な皮膚保護具を選択し、専門家の認可を受けなければならない。
- 呼吸用保護具** : 危険性と暴露の可能性に基づき、適切な基準または認証を満たすマスクを選択すること。マスクは、呼吸保護プログラムに従って使用し、適切な付け心地、トレーニング、および使用上のその他の側面を確実にすること。

9. 物理的及び化学的性質

外観

- 物理的状態** : 固体。
- 色** : 緑色。
- 臭い** : データなし。
- 臭いのしきい** : データなし。
- pH** : データなし。
- 融点** : 174-300°C (345.2°F)
- 沸点** : データなし。
- 引火点** : データなし。
- 蒸発速度** : データなし。
- 燃焼性(固体, 気体)** : データなし。
- 爆発(燃焼)限界の上限および下限** : データなし。
- 蒸気圧** : データなし。
- 蒸気密度** : データなし。
- 密度** : データなし。
- 溶解度** : データなし。
- n-オクタノール/水分配係数** : データなし。
- 分解温度** : データなし。
- 自然発火温度** : データなし。
- 粘度** : データなし。

10. 安定性及び反応性

- 反応性** : 通常の温度で製品は安定である。
- 化学的安定性** : 通常の条件では安定
- 危険有害反応可能性** : 通常の貯蔵および使用条件下では、有害な反応は起こらない。
- 避けるべき条件** : 高温、加熱、熱源、裸火

10. 安定性及び反応性

混触危険物質 : 次の物質と反応性あるいは危険配合性:
酸化性物質

危険有害な分解生成物 : 一酸化炭素、ホルムアルデヒド

11. 有害性情報

毒物学的作用に関する情報

急性毒性

製品 / 成分の名称	結果	種類	投与量	暴露時間
キンヒドロ ン フタル酸モノカリウム塩	LD50 経口 LD50 経口	ラット ラット	225 mg/kg 3200 mg/kg	- -

刺激性/腐食性

データなし。

感作

データなし。

変異原性

データなし。

発がん性

データなし。

生殖毒性

データなし。

催奇形性

データなし。

特定標的臓器/全身毒性(単回暴露)

名称	カテゴリ	暴露経路	標的臓器
160-22(ORP標準液粉末)	区分2 区分3	未確定 該当せず。	未確定 気道刺激性

特定標的臓器/全身毒性(反復暴露)

名称	カテゴリ	暴露経路	標的臓器
160-22(ORP標準液粉末)	区分2	未確定	未確定

呼吸に対する危険有害性

データなし。

可能性のある暴露経路についての情報 : データなし。

起こりうる急性毒性

- 眼に入った場合** : 重篤な眼の損傷。
- 吸入した場合** : 吸入すると、単回暴露で臓器に障害を引き起こすおそれがある。呼吸器への刺激のおそれ。
- 皮膚に付着した場合** : 刺激性がある。
- 飲み込んだ場合** : 飲み込むと有毒。飲み込むと、単回暴露で臓器に障害を引き起こすおそれがある。

物理的・化学的および毒物学的な特性に関連する症状

- 眼に入った場合** : 有害症状には以下の症状が含まれる:
痛み
流涙
発赤

11. 有害性情報

- 吸入した場合** : 有害症状には以下の症状が含まれる:
気道の刺激
咳
- 皮膚に付着した場合** : 有害症状には以下の症状が含まれる:
痛み及び刺激
発赤
水ぶくれになることがある
- 飲み込んだ場合** : 有害症状には以下の症状が含まれる:
胃痛

遅発性および即時性の影響ならびに短期および長期の暴露による慢性的な影響

短期暴露

- 潜在的な即時性作用** : データなし。
- 潜在的な遅発性作用** : データなし。

長期暴露

- 潜在的な即時性作用** : データなし。
- 潜在的な遅発性作用** : データなし。

健康への慢性効果の可能性

データなし。

- 概要** : 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ。粉塵を繰り返しあるいは長期間吸入すると、慢性の呼吸器炎を引き起こすことがある。一度感作されると、それ以後非常に低濃度に暴露しても重度のアレルギー反応を起こすことがある。
- 発がん性** : 発がんのおそれの疑い。がんのリスクは、暴露の期間およびレベルによって異なる。
- 変異原性** : 遺伝性疾患のおそれの疑い。
- 催奇形性** : 重大な作用や危険有害性は知られていない。
- 発育への影響** : 重大な作用や危険有害性は知られていない。
- 生殖能力に対する影響** : 遺伝性疾患のおそれの疑い。

毒性の数値化

急性毒性の推定

経路	急性毒性推定値(ATE値)
経口	225 mg/kg

12. 環境影響情報

毒性

製品 / 成分の名称	結果	種類	暴露時間
キンヒドロン	水生毒性(急性) 水生毒性(慢性)	水生生物に非常に強い毒性(区分1) 長期的影響により水生生物に非常に強い毒性(区分1)	魚類(ファットヘッドミノ) LC50=0.045mg/1/96H

残留性・分解性

データなし。

生体蓄積性

データなし。

土壌中の移動性

- 土壌/水分配係数(K_{oc})** : データなし。




12. 環境影響情報

- 移動性 : データなし。
 その他の悪影響 : 重大な作用や危険有害性は知られていない。

13. 廃棄上の注意

- 廃棄方法 : 廃棄物の発生は避けるか、あるいは可能な限り少なくする必要がある。この製品、製品の溶液およびあらゆる副生成物の処分は、常に環境保護および廃棄物処理に関する法律の定める要求事項、および現地法の定める要求事項に従わなければならない。余剰またはリサイクルできない製品は許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処理する。管轄当局の要件に完全に準拠しない限り、廃棄物を無処理で下水道に流してはならない。焼却または埋め立ては、再利用が不可能な場合にのみ検討すべきである。この材料およびその容器は安全な方法で廃棄しなければならない。清掃または洗浄されていない空容器を取り扱う際には注意しなければならない。空の容器や中袋に製品が残留している可能性がある。漏出した物質や流去水の拡散、および土壌、水路、排水溝下水道との接触を回避する。

14. 輸送上の注意

	UN	IMDG	IATA
国連番号	UN2811	UN2811	UN2811
品名(国連輸送名)	POXIC SOLID, ORGANIC, N.O.S. (quinhydrone)	POXIC SOLID, ORGANIC, N.O.S. (quinhydrone)	POXIC SOLID, ORGANIC, N.O.S. (quinhydrone)
国連分類(輸送における危険有害性クラス)	6.1 	6.1 	6.1 
容器等級	III	III	III
環境有害性	該当せず。	No.	No.
追加情報	-	-	-

- 使用者のための特別な予防措置 : 使用者の施設内での輸送: 直立型の安定した容器に入れて輸送する。本製品の輸送者が事故や漏出の際の対処法を理解していることを確認する。

15. 適用法令

消防法

記載された成分なし。

消防法 - 消防活動阻害物質 : 非該当

指定可燃物 : データなし。

指定数量 : データなし。

要届出物質 : 非該当

海事安全

危険物の海上運送規制に関する通達

記載された成分なし。

容器等級

記載された成分なし。

労働安全衛生法

特定化学物質障害予防規則:

記載された成分なし。

名称等を表示すべき危険物及び有害物

15. 適用法令

記載された成分なし。

名称等を通知すべき危険物及び有害物

記載された成分なし。

発がん性物質

記載された成分なし。

変異原性物質

記載された成分なし。

腐食性液体

: 非該当

労働安全衛生法: 別表第一

: データなし。

鉛中毒予防規則

: 非該当

四アルキル鉛中毒予防

: 非該当

製造の許可を受けるべき有害物

: 非該当

製造等が禁止される有害物等

: 非該当

危険物

: 非該当

有機溶剤中毒予防規則

: データなし。

化審法

成分名	%	状況	政令番号
フタル酸水素カリウム	50%		(3)-1342 (3)-1272

毒物及び劇物取締法

記載された成分なし。

化学物質排出把握管理促進法(PRTR)

記載された成分なし。

高圧ガス保安法

: データなし。

海洋汚染および海洋災害防止法

: データなし。

道路法

: データなし。

特別管理産業廃棄物リスト

: 非該当

日本インベントリ

: 日本インベントリ(ENCS)(既存及び新規化学物質): 未確定。
日本インベントリ(ISHL): 未確定。

日本産業衛生学会 発がん性物質

: 非該当

船舶安全法

: 危規則第3条危険物告示別表第1条毒物類

航空法

: 施行規則第194条危険物告示別表第位置毒物類

港則法

: 施行規則第12条危険物告示毒物類

国際条約

化学兵器禁止条約リストスケジュールI、II、IIIの化学物質

非該当。

モントリオール議定書(付属文書A、B、C、E)

非該当。

残留性有機汚染物質に関するストックホルム条約

非該当。

事前通報承認制度(PIC)に関するロッテルダム条約

非該当。

15. 適用法令

[POPおよび重金属に関するUNECEオルフス\(Aarhus\)議定書](#)

非該当。

16. その他の情報

履歴

発行日/改訂版の日付 : 2019年7月26日

前作成日 : 2017年5月12日

前バージョンから変更された情報を指摘する。

注意事項

本データシートは化学品を安全に取り扱うための情報を記載しています。新たな情報を入手した場合は、データシートの内容を予告なく追加・変更することがあります。注意事項は通常の手続きについて記載していますので、特殊な取り扱いをする場合は、ご使用者の責任において、その用途・用法に適した安全対策を実施してください。化学品の危険有害性情報を記載しておりますが、参考情報であり、いかなる保証をするものではありません。